

24年度開講「AI と人間」について

◆設置趣旨

人工知能の急激な発展は、革新的な技術の誕生というレベルを超えて、人間や社会をめぐるこれまでの考え方を根底から揺さぶりつつある。その影響を、人類の夢の実現といったユートピア的な色彩に描き出す論者もいれば、反対に、人間の主体性が失われるディストピアを招くものとみて、警鐘をならす論者もいる。

本講義の目的は、人工知能の登場とその進化がもたらすさまざまな可能性あるいは憂慮すべき問題点を、一面的な視点から切り取って論じるのではなく、人文・社会科学その他さまざまな観点から分析し、人工知能と共存して生きることを余儀なくされる時代に必要な、知的バックボーンを学生に与えることである。

具体的にはさまざまな論点が考えられる。アトランダムにあげれば、機械が心(精神)を模倣できるのかという原則的な問いから、認知機能や創造性、責任と倫理、自己決定やデータ偏重などにかかわる諸問題、さらにより実践的には、マーケティングや労働環境、公共政策、介護、教育、さらには健康スポーツ科学への応用など、実に多様な分野が視野に浮上する。だがそれらに共通するのは、人工知能の飛躍的な能力向上にともなって、あらためて、人間とは何か、社会のあるべき姿は何かを問い直す姿勢だろう。「AI と人間」と題した講義を通じて、新たな未来を構築するためのクリエイティブな思考が学生に生まれることを期待したい。

◆実施形態

・)授業

- ・春学期、秋学期、ともに各 1 コマ開講。オンデマンド方式で実施。
- ・科目責任者を1名置く。
- ・既存6学部および教養教育センターが、原則として2回ずつ講義を担当する。
7 部局×2 回+特別学習回(内容は科目責任者が設定)
- ・担当者の選出は、6月の教学改革推進本部会議で、湯沢副学長より学部長、センター長に正式依頼。7月中には決定したい。

・)成績評価

- ・レポート評価は困難とおもわれるので、「manaba」を使用したオンデマンド小テスト方式か。
AI・データサイエンス教育実施委員会ないし担当者間で要協議。

◆◆ 24年度「AIと人間」担当者および授業内容一覧(2023年9月9日現在)

担当者	授業テーマ	論点
文学部教員	シンギュラリティの可能性	トランス・ヒューマニズムの諸相、「人造人間」の東西
		人間とAIの境界線をめぐって：記号接地問題、フレーム問題、クオリアなど
経済学部教員	企業の採用活動とAI	「アンコンシャスバイアス」とAIの活用など
同上	AIと経済学	AIの発展と雇用、労働分配率および経済成長
社会学部教員	知性(知能)観の転換と人工知能(AI)	「論理学の機械化」から「統計学の機械化」へ
同上	映像文化とAI	AI/データサイエンスからみる映像文化、AIはどうやって囲碁に勝ったか、iPhoneのカメラの仕組み、AIと画像認識が生み出す不均衡
法学部教員	生成AIと法	深層学習、大規模言語モデル、AIと法的課題
	生成AIと責任	自由意志と法的責任主体
国際学部教員	技術革新の歴史と仕事・職業の変化	技術革新の経済的勝者と敗者、深層学習AIの発展による「仕事」の変化
同上	人類学から考えるAIとの共生	人間にとってのテクノロジー、AIとの共生とベーシックインカム
心理学部教員	心とAI—認知科学の観点から	心の生成や他者の心の理解、自己/自我の唯一性など
同上	AIと教育	教育の未来とスキル、教育とテクノロジー、教育における先端科学技術とELSI
教養教育センター教員	キリスト教の人間理解とAI	神の似姿としての人間、原罪と原義、人間理解の変化とキリスト教
同上	AIと言語	AIにおける言語習得、言語生成および語学学習におけるAI利用

◆◆◆「AI と人間」(24 年度秋学期) 履修者の感想例

◆2 回目「シンギュラリティの可能性」

- 人工知能は感情を持つのかということに対して、私は人工知能と人間との感情の違いはあまりないのではないかと考えていた。それは、人工知能の学習能力は人の赤ちゃんに似ていて親が子に教えるように、AI に新しいパターンを教えていくと人間と同じように感情を抱き、経験を積んでいくと思う。また、知識やパターンを増やしアップデートしていくことは肉体がないだけで、赤ちゃんがどんどん成長していくのと同じことだと思っていた。しかし、今回の講義を聞いて、肉体を持つことは感情を抱くうえでとても重要なことなんだと思いました。心拍数や体温の変化で抱く感情は変わってくる。AI には肉体がなく経験とパターンからでしか感情が分からないという点が人との明らかに異なる点であると感じた。ただ、人間は感情を抱いてから肉体的に反応が現れるのか、肉体的な反応に伴って感情を抱くのかまず人間の感情の仕組みについて理解する必要があると感じた。
- 前回の授業では、人工知能が人間の知能に接近することが困難で、人間は身体を持ち、生命であり、生命としての身体を環境に晒しながら環境との相互作用の中で言葉の意味を獲得し、その意味を組み立てながら文章を再生し、思考していくものだといえます。しかし今回の授業のカーツワイルによると、人工知能は生物としての基盤を超越し、人間と機械は差がなくなってしまうと考えています。前回と今回の授業内容がとても対比的だったので聞いてとても面白かったです。また、対極的だったので理解しやすかったです。

◆7 回目「企業の採用活動と AI」

- AI の導入は生産性向上と経済成長をもたらす一方で、労働分配率低下や雇用への影響といった課題もある。特に、ソロー成長モデルにオートメーションを組み込むことで持続的成長が可能になる一方、労働の代替による賃金低下のリスクが示されており、AI 時代の経済発展と公平性のバランスの難しさを感じたと同時に雇用減少に焦りを感じた。
- 今回の授業を聞いて、AI による技術革新は、私がアルバイトとして働く部署の惣菜販売にも影響を与える可能性があると感じました。例えば、AI による需要予測や在庫管理の最適化は、生産性の向上に伴い人件費の削減にも繋がり、より効率的な営業が実現できると思いました。また、AI を活用した新たなビジネスモデルを創造し、個別の嗜好や健康志向に応じたレシピ提案が可能になり、他社との差別化が図れる可能性もあると思いました。私たち販売アルバイトの日々の業務では、ただ商品を提供するだけでなく、AI にはできないような顧客満足度を高めるサービスを意識することが不可欠だと実感しました。

◆11 回目「キリスト教の人間理解と AI」

- Dei (神の似姿)」とチューリング・テストを比較し、人間の模倣という視点から AI を考える試みは、新しい視点を提供してくれました。これまで AI を技術的側面からだけ見ていた自分にとって、宗教的・哲学的な議論がここまで密接に関連していることは驚きでした。また、AI が人間性を模倣する際の倫理的な課題や、偶像崇拜批判との関連性も、単なる技術の話にとどまらず、文化的・精神的な広がりを感じさせるものでした。「シンギュラリティが来る」という楽観的な見方と「来ない」という批判的な立場を両方取り上げ、それぞれの主張を知ったことで、AI の未来に関する考え方が多角的になりました。特に、技術的な進化がどこまで人間の本質に迫れるのか、またその限界がどこにあるのかを考えることが大切だと思いました。キリスト教が長年培ってきた人間理解の枠組みが、現代の AI の課題や可能性を考える上でどのように役立つのかを学べたのも印象的でした。科学や数学だけでなく、宗教や哲学的視点を交えて議論することで、AI が技術以上の意味を持つことを理解できたのは大きな収穫だと思います。特に、「既知を未知の問題解決に転用する」という汎用的読解力の重要性の指摘は、AI の時代における人間の役割を再確認できました。
- 今回の講義では、「AI とキリスト教」という一見交わらないように思えるテーマが、深い哲学的問いを投げかけていることに感銘を受けました。シンギュラリティの議論やチューリングテストの限界が、単なる技術的な話題を超え、「人間とは何か」「神の似姿とは何を意味するのか」といった神学的な問いと結びつく様子は、AI が単なるツールではなく、私たち自身を映し出す鏡であることを示しているように感じました。特に興味深かったのは、AI が模倣しようとする「人間らしさ」が、非合理的な意思決定や潜在的な悪を含む複雑な性質を持っている点です。これは、人間を模倣することが AI の進化である一方、その模倣が倫理的なジレンマを生む可能性を秘めていることを示唆しているようでした。また、「物象化」や「偶像崇拜」に AI が陥る危険性についての議論は、現代の AI 技術に対する社会的態度を再考する契機となりました。

◆14 回目「生成 AI と責任」

- AI が人間のような「自由意思」を持つことが不可能であるという議論は、哲学的でありながらも現実的な視点を提供していると感じました。講義中で触れられたオートポイエーシス理論に基づく「他律システム」の概念は、AI の本質を明確に表しており、AI に責任を負わせることが原理的に不可能であるという点に納得しました。また、生成 AI が人間らしい応答をする一方で、その背後には純粋なアルゴリズムしか存在しないという指摘は、私たちが AI に抱く幻想を鋭く指摘するものでした。この点から、人間が AI を「道具」として責任を持って使う必要性が一層強調されると感じました。一方で、講義の中では法的責任の所在についても興味深い問いを投げかけています。例えば、自動運転車の事故責任が AI 自体ではなく、その開発者や使用者にあるという指摘は、現代社会における技術進化と法の未整備な部分を浮き彫りにしており、今後の課題を強く感じました。

- 今回の講義では、倫理的かつ社会的な側面から AI 技術を深く考察することができた。特に、自由意志の有無が責任の所在に深く関わるという議論は、AI を単なる道具として捉えるだけでなく、将来的な AI の自律性や権利を考える上で重要な視点だと感じた。決定論や両立説といった哲学的な議論から、現在の AI 技術の限界、そして法人格付与の可能性まで、多岐にわたる論点が提示され、AI と社会の未来像について多角的に考察することができた。生成 AI が高度な言語能力を持つ一方で、原理的に自由意志や意識を持たないという点は、その能力と責任の乖離を考える上で重要な示唆を与えてくれる。今回の講義を通して、技術の進展と並行して、倫理的・法的な議論を深めていく必要性を強く認識することができた。